

HSK 毎月十二回(一・三・五・八・十一・十三・十五・十八・二十・二十三・二十五・二十八日)発行
一九九四年八月四日 第三種郵便物承認

HSK

遊 ぼう よ

No. **68**



(字: 石動智江子さん)



コミュニケーション

支援「講座」開催

(募集定員20名)

お申し込みは、当センターに電話・FAXで、
2月15日までお願いします。
なお、定員になり次第締め切らせて頂きます。

期日：2013年 **3**月 **2**日(土)
～ **3**日(日)の2日間

会場：サンシップとやま(3/2)701室・(3/3)501室

内容は、神経難病のコミュニケーション支援に特化したもので、**透明文字盤や機器の体験(レッツチャットや伝の心、オペナビなど)**、**スイッチの適合の講義、オリジナルスイッチ作成の工作**などで2日間のコース

(脳性麻痺の方も参加出来ます。なお、事前に希望をお聞かせ下さい)

* (希望者のみ工作実習「スイッチインターフェイスの製作」材料費1,000円)がかかります。

講師は、NPO ICT救助隊の今井氏、仁科氏のほか、川村義肢の日向野氏、日本ALS協会東京都支部の山本氏(PT)を予定しています。

変更

1日目のインターフェイスの改造は希望者のみ1,000円
2日目のスイッチ作成講座は全員参加で材料費1,000円
になります。

「カリキュラム」の予定

1日目

- 10:00 開会にあたり
- 10:10 コミュニケーションについて
文字盤の実習と携帯型会話補助機器体験
(レッツチャット、ペチャラ、トーキングエイド)
- 11:30 意思伝達装置「伝の心」について1
- 12:00 昼食
- 12:50 意思伝達装置「伝の心」について2
- 14:00 オペレートナビについて
- 15:30 フリーソフトHeartyLadderについて
- 16:10 希望者のみ工作実習「スイッチインターフェイスの製作」材料費1,000円
- 18:00 終了

2日目

- 10:00 スwitchの適合
(川村義肢 日向野和夫氏)
- 12:00 昼食
- 12:45 工作実習「オリジナル入カスイッチ製作」材料費1,000円
- 14:30 オリジナルスイッチでHeartyLadderの操作
- 15:30 ALS、筋ジス等神経難病の支援について(日本ALS協会東京都支部 山本撰)
- 16:00 終了

主催：自立生活支援センター富山

協賛：NEC CSR・社会貢献室

〒930-0024 富山市新川原町5-9 TEL. 076-444-3753 FAX. 076-407-5557

この企画は、富山市障害者相談支援事業の一環として行います

自立生活支援センター富山の主な動き



〈この間の活動報告〉

11月20日(火) 出張ピアカン開催	高志ワークホーム
11月21日(水) 出張ピアカン開催	高志ライフケアホーム
11月21日(水) 相談支援従事者現任者研修出席	富山県民会館
11月22日(木) 専門ワーキング出席	和敬会生活支援センター
11月24日(土) 送迎	富山市内
11月25日(日) 送迎	富山市内
11月28日(水)	
～12月3日(月) 自立生活体験	自立生活体験室
12月4日(火) 送迎	富山市内
12月6日(木) ケア会議開催	八尾保健センター
12月8日(土) ポストポリオ会議出席	高志リハビリテーション病院
12月10日(月) ケア会議開催	リーぶる事務所
12月10日(月) 事務局会議	リーぶる事務所
12月16日(日) 日曜相談会開催	リーぶる事務所
12月18日(火) 出張ピアカン開催	高志ワークホーム
12月19日(水) 出張ピアカン開催	高志ライフケアホーム
12月19日(水) 相談支援ワーキング出席	富山市役所
12月21日(金) 送迎	富山市内
12月21日(金) 事務局会議	リーぶる事務所
12月29日(土) 送迎	富山市内
12月31日(月) 送迎	富山市内
1月3日(木) 送迎	富山市内
1月5日(土) 送迎	富山市内
1月9日(水) 専門ワーキング出席	障害者福祉プラザ
1月12日(土) 送迎	富山市内
1月15日(火) 出張ピアカン開催	高志ワークホーム
1月16日(水) 出張ピアカン開催	高志ライフケアホーム
1月17日(木) 送迎	富山市内
1月20日(日) 日曜相談会開催	リーぶる事務所
1月25日(金) 事務局会議	リーぶる事務所
1月26日(土) ポストポリオ会議出席	高志リハビリテーション病院
1月29日(火)	
～31日(木) 自立生活体験	自立生活体験室

〈今後の予定〉

3月2日(土)・3日(日) コミュニケーション支援「講座」開催 サンシップとやま



私的「生きる場センター」の歩み ⑱



(沼田さとし)

◆大和秀雄さんのこと(その2)

前号でも触れましたが、私にとって、大和秀雄さんは命の恩人です。今、自分がここにいるのは大和さんのお陰と言っても過言ではありません。

私が大和さんと出会ったのは、1981(S56)年。大学1年の時です。「サンのかい」(障害者団体)の方々に関わり始めた頃だと思います。小さな体に秘める行動力は想像を超えていました。

よく「(東京で)集会があるから付き添ってほしい」「デモに参加するから一緒に行こう」と誘われ、大和さんの車イスを押して電車やバスなどに乗って出掛けたものです。当時はまだ手動式の車イスに乗っていたので、何かにつけて介護に駆り出されていました。自身も手で車イスをこいで身近なお店やいろんなところに出掛けていたようです。

1982(S57)年の「富山市差別照会文書問題」に係る警察の弾圧の際、私の周辺や私自身にも執拗な私服警官の付きまといがありました。アルバイト先に来て雇い主にありもしない情報を流す。実家の両親に「そそのかされて悪い活動をしている」と虚言する。大学には「親に勘当された」とウソを流す…。

そのことがきっかけで、私はアルバイト先の主人から「悪い活動を辞めなければ富山に住めなくさせるぞ」と脅され、アルバイトを辞めざるを得なくなりましたし、父親と兄が「実家に連れて帰る」と富山までやってきました。幸い父親と兄は、私の実際の活動を見て、警察が言うことが間違いだと分かって、そのまま「がんばれ!」と言い残して帰っていきましたが…。

もう私自身は限界に達していて、このまま「サンのかい」に関わり続けるべきか否か迷っていました。

そして、「サンのかい」では、警察に抗議することを決めました。「無関係の介護者につきまとわないように」と。「重度障害者から介護者を奪うことは障害者の生存権の侵害だ」と。

その抗議文を富山県警に持って行った時も、大和さんが率先して、「僕が行く!」と県警の4階までの階段を車イスで上っていきました。

その抗議をした日を境に、警察の付きまといはパタッとなくなりました。

しかし、私はいつまた警察が何かの拍子に言い寄ってくるのか、また付きまといられるのではないのか、いろいろ言いがかりをつけられるのではないのか、仕返しされるのではないのかという恐ろしさは長く消えませんでした。

今まで住んでいたアパートを出て、しばらくは大和さんなど「サンのかい」の人たちのアパートや事務所の2階に居候したり、転々とし、知人先(富大生協や学習塾など)でアルバイトさせてもらいながら1年近くを過ごしました。

からだを張って守ってくれたことに何よりも私は感謝しています。このことをきっかけに、私は障害者全体にとって利益になることを私なりに何かできれば…と考えるようになりました。

今回は、「大和さんのこと」と言いながら、私事ばかりを書いてしまいました。ご容赦ください。

次号は、少し私の知る範囲での大和さんの武勇伝などに触れたいと思います。

(つづく)

◇ 編集後記 ◇

知的障害がある方の通院に同行しました。診察室で家族構成や病歴、現在の生活状況など聞かれるのですが、先生の質問や指示が難しく思われ、つい横から口をはさんだりして要らぬおせっかいだったかもしれません。どこまで手を出し口を出すのがいいのか。こういう場面ではいつも悩みます。

(文責・田中)

編集人：特定非営利活動法人
自立生活支援センター富山
連絡先：〒930-0024
富山市新川原町 5-9
レジデンス新川原 1F
TEL. 076-444-3753
FAX. 076-407-5557
郵便振替：00700-5-47253
自立生活支援センター富山
発行人：北陸障害者定期刊行物協会
富山市今泉 312 番地
定 価：90円
年間購読料：360円